

友人の ベトナム コロナ禍体験記

太田隆次

友人YKさんが、『ベトナム出張』の様子を知らせてくれましたので、シェアします。

ベトナムは、コロナ抑えこみに成功している国の一つですが、それだけに、入国後2週間の隔離は厳しいものだったようです。

コロナ禍で、外国出張も命がけですが、その緊張感が伝わってきます。

こうした、生身の「今」の動きを、知らせてくれる友人たちのおかげで、籠城が続く老人もそれなりに「Out of date」にならずに済んでいます。ありがたいことです。

近況をお知らせします。1月17日～2月11日までの25日間、ベトナムに出張に行って参りました。前半2週間は社会隔離状態、後半の10日間で仕事を終えて無事に帰国しました。

日本が緊急事態宣言に入った直後のことでしたが、ベトナムに製造子会社を設立するためにどうしても行かねばならず出かけたんです。出張前後のことを少し報告させていただきます。

PCR検査は出張前後で5回受診しました。まずは出張前の1月13日、ベトナムに入国した翌日の17日、隔離明け前日の31日、ベトナムを発つ前の8日、そして11日、羽田空港の検疫所で最後の受診となりました。どれもこれも結果が出るまではハラハラドキドキでした。

特にベトナムを発つ前の検査はこれで陽性が出ると帰国ができないばかりか滞在中接した方々がF1（濃厚接触者）となり迷惑がかかってしまうからです。

場合によっては陽性者はクチ（例のクチトンネルのあるところ）の野戦病院に入れられると聞いてゾッとしました。

偶然ですが、1月17日、ホーチミン行きの同じフライトに乗っていた54歳の日本人ビジネスマンがその後、2月13日にハノイのホテルで死亡したとのニュースが入りました。

後のPCR検査で陽性と判明したとのことでした。

ちょうど隔離明けの31日ぐらいからハノイで第三波が出始めましたので、たぶんハノイで感染したものと思われます。これも悲しい話でした。

ベトナム側の水際対策はほぼ完ぺきだったと思います。

まずは日本の発つ前にWebで『医療申告』を行い、そのQRコードをホーチミンの空港で提示すれば検疫はスムーズでした。その後は、パスポートコントロールでも事前に3ヶ月のビジネスビザ申請を行い、入国許可をもらっていたので問題なく通過、荷物のピックアップの後は防護服に着替えさせられて専用バス（同僚とたったの二人でした）でホテルまで移送されました。ホテルに着いたのが夜中の11時半ごろでしたが、待ち構えていた防護服を来たホテルマンに噴霧器で消毒液（アルコールではなく、塩素系漂白剤）を頭から浴びせられたのには参りました。

宿泊先のホテルは政府指定の隔離ホテルで、中はどこもかしこも消毒液がまかれてびしゃびしゃに濡れていました。2週間の隔離中は朝晩の検温2回、食事はホテル側が用意してくれた3食、ドアの外に出られたのは2回のPCR検査の時だけで、あとはホテルの部屋から一步も出られない軟禁状態でした。ハウスキーパーも中には入れないため、掃除やシーツ交換は自前で行い、必要な時に呼んでタオル交換やごみを回収してもらっていました。

いまどきはWebで会議ができたり、メールのやり取りもできましたので意外に時間を持て余すようなことはなかったです。

隔離明けの仕事は予定通り順調にこなすことができましたが、街の状態はコロナの影響もありホテルやおみやげ物屋さんなどは閑散としていて、また観光バスや外国人もいないためレストランもいつもよりは空いていました。

それでもベトナムは早期にコロナを抑え込んだことが奏功して、去年は輸出や個人消費に支えられて経済成長率も3%近くまで達しました。コロナ禍の中アジアあるいは世界でもこれだけの成長率を達成した国はないかと思います。共産党一党独裁の国ということが自由を声高に主張する民主主義国家とは違いまずは経済よりコロナ撲滅に重きを置いた政策が成功したのだと思います。

ベトナムを発つ前日9日には、ホーチミンでも感染者が増えて来たこともあり、学校が休校、バー、マッサージ、カラオケなどの営業が停止となりました。昨年、3月同様に、からくも脱出して無事に帰国できてホッとしました。

ホーチミンを10日の夜中に発ち、羽田空港に着いたのが翌日11日の午前6時少し前、それから検疫所でベトナムで取得した陰性証明書と厚生労働大臣宛ての誓約書（14日間の自宅待機、公共交通機関の利用不可など）の提出、PCR検査を終えて羽田空港をハイヤーで出たのが7時半でしたので意外に早くコロナの検問から脱出できたと思いました。

自宅待機も早や11日が過ぎ、あと残すところ3日の辛抱です。厚生労働省からの要請で、グーグルマップでの位置情報の設定、LINEアプリをインストール、毎日お昼ごろにLINEの自動音声やメッセージで健康状態の確認があり、自治体の保健所ともつながっているとか、一応のけん制がかかっているようです。

最後にこれは余談ですが、ホーチミン発の復路フライトはANAでしたが、機材は最新鋭の787型、乗客は約40人程度、聞いたところでは羽田発の往路フライトでは乗客はゼロ、パイロットを含めたCAなどクルーは一步も機外には出られず、機内で帰り便のフライトまでひたすら待機だったそうです。航空会社の使命なのか、採算度外視のフライトをしてまで迎えに来てもらって感謝の気持ちで一杯でした。航空会社にエールを送りたいです。

YK

太田さま

ベトナムのコロナ対策を知ることができてありがとうございました。

私は、昨年11月息子の宇宙出発を見送りにアメリカに参りました。出国前はJAXA 医師と私の主治医との連携で様々な予防接種をしたり、2週間の体温測定の記録を取らされたりしました。そのJAXAの担当医師の保証があったためでしょうが、アメリカ入国はあっけなくできました。

そして滞在中は何の制約もなく自由に動き回ることができました。お蔭で1週間の滞在で無事ロケット発射を見送ることができました。ありがたかったです。

アメリカでは往復で4回大きな空港で、一般の人たちと接しました。皆マスクはつけていましたが、昔と変わらぬ混雑ぶりでした。成田空港が往復とも閑散としていたのとは大違いでした。

帰国して、成田での唾液検査と交通機関使用禁止と、2週間の家庭待機とその間の厚生省からの電話フォローは、このYKさんの体験と同じでした。

幸いコロナには感染しませんでした。野口幹夫